

新型コロナウイルス 感染予防対策

- 手洗い ●うがい
- 「密閉・密集・密接」が
重なる場を避ける

私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

みやぎ民医連

発行所 宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801 田村ビル5F
TEL 022-265-2601
FAX 022-263-8266
e-mail: dai@miyagi-min.com
発行人 坂田 匠
1日・15日 月2回発行 1部 50円

全日本民医連 第44回定期総会

参加代議員発言

全日本民医連第44回総会が、2月20日から22日にかけて熊本市内で開催されました。宮城からは17名の代議員が参加しました。全員が全体会や分散会で発言しました。その中から今回は3名の方の発言を紹介します。

医科・歯科介護連携における
歯科衛生士の役割と民医連歯科衛生士の育成

「あらゆる場」を

「民医連歯科衛生士の活躍の場」に



小玉奈緒美さん

今日、口腔の健康と全身の健康の関係が明らかになり、特に口腔ケアは口腔機能の維持・改善、口腔感染症の予防、全身感染症の予防、全身状態やQOLの向上、コミュニケーション機能の回復等の効果が周知され、病棟での無料口腔チェック、歯科衛生士のNST（栄養サポートチーム）

古川民主病院 歯科 歯科衛生士 小玉 奈緒美
やRST（呼吸サポートチーム）への参加、周術期における介入等、歯科衛生士が歯科診療室に限らず、病棟や施設でその役割を発揮する機会が増えています。さらに歯科事業所以外の病棟看護部やリハビリ科に所属する歯科衛生士が増加傾向にあります。
2020年4月診療報酬改定では、医科歯科連携の強化や、「非経口摂取患者口腔粘膜処置」の新設がされ、経口摂取が困難な口腔の自浄作用の

42期にはじめて全日本民医連歯科衛生士交流集会を開催し、集会の中では民医連の歯科衛生士に何が求められているのかを考える上で多くの課題や問題提起がされました。
43期は、全日本歯科衛生士地協代表者会議で歯科衛生士政策づくりに取り組みました。『民医連のめざす看護とその基本となるもの』を読んで、民医連看護の歴史を学ぶ意義、日々の事例・症例から民医連の看護を継承・発展する目的等を学習し、民医連歯科衛生士の歴史やめざす医療、歯科衛生士アセスメントシート等を検討しています。例えば、民医連歯科衛生士のめざす医療で

は、根本に日本国憲法と民医連綱領をすえ、すべての人が人間らしく、その人らしく生きていくことをあらゆる場で援助する無差別・平等の医療と福祉をめざしますとし、綱領から民医連歯科衛生士の役割を考え、キーワードを抽出し、「あらゆる場」を「民医連歯科衛生士の活躍の場」として図にし、わかりやすく視覚的にアプローチする等、議論を重ねています。

成は、その活躍の場が拡大していることも要因となり、課題のひとつです。政策の提起が、全国800名を超える民医連歯科衛生士ひとりひとりとって、民医連綱領に基づいた日々の医療活動に誇りをもち、個人の成長と歯科衛生士集団のさらなる発展の契機となるよう、取り組みます。
民医連歯科衛生士は民医連全職員の約1パーセントですが、42期全国集会で証明されたパワーがあります。多職種協働を実践し、口腔から患者や地域を健康にし、そしてまちづくりをすすめていきたいです。



つばさ薬局泉店における安心して住み続けられるまちづくりへの取り組み

顔の見える関係づくりが重要

つばさ薬局泉店 薬剤師 清藤 広史



清藤広史さん

つばさ薬局泉店は、仙台市北部の住宅地にある薬局です。

全国で高齢化が進む中、薬局がある地域も団地が造成されてから40年以上経過し、例外ではありません。高齢化が進み、独居の世帯も増えてきています。近隣に地域包括支援センターが開設され、地域の住民に寄り添う活動が行われてきました。

数年前まで当薬局も調剤して服薬指導する、在宅訪問に出るといった業務が中心の薬局でした。しかし、近年、保険薬局においても健康サポート薬局をはじめとした様々な役割が求められるようになり、今年度は地域における活動を薬局の方針の重点課題として取り組んできました。業務の中心がものからひとへシフトしていく中で、保険薬局においても調剤して指導するだけでなく、地域の方々へ情報発信し健康相談窓口として機能させることで、安心して住

み続けられるまちづくりの一翼を担うことが必須です。
この間の当薬局の地域における取り組みについてご紹介します。
①薬局がある地域では、年2回定例で地域包括ケア会議が開催されます。会議への参加を通して地域の実情を知るとともに、地域の他職種との方々と連携を深める機会となっています。
地域住民を代表して町内会長さんや民生委員さんも参加し、地域における問題点を共有し活発な意見交換が行われていま

す。薬局の役割や薬剤師が地域でできることを知ってもらうとともに、お互いの顔を知る場にもなっています。
②近隣の小規模多機能施設において、認知症交流力フェスが年4回開催されています。お茶やお菓子をいただきながら地域の方々とお話しする機会となっており、他、薬剤師から薬の正しい使い方や薬剤師が薬局の外でどういった活動をしているのかを話す時間をいただき、薬剤師の役割を知ってもらい普段の薬局活動をアピールする場となっています。
③今年度は、仙台市の介護予防事業として介護予防教室が4回行われました。参加する地域の方々に興味をもってもらう内容を検討し、薬や

サプリメントの正しい使い方や便秘・下剤の使い方についてお話しさせていただきました。介護予防教室での講師活動により、地域の方々から健康に安心して生活できる環境を作り出していくとともに、薬局が健康に関する相談窓口としての機能をさらに強めていくことが必要です。
④医療・介護の連携として、民医連以外の介護事業所の職員へ向けた研修会で薬剤師の役割についての講師活動などを行なってきました。今年度は、複数の医療機関を受診されている方の薬の一元的管理についてお話ししました。参加された介護職員の方からは、身近に患者さんの生活の場を目にする立場として薬の管理の難しさなどのご意

見をいただき、薬剤師がどういったことができるのかを、かかりつけ薬剤師の制度や居宅療養管理指導観点からお話しました。
いずれの場でも、薬剤師にとって当たり前のことが、他の職種や地域の方々にとってはそうではなく、まだまだ薬剤師の役割について情報発信が必要であると痛感させられました。またこの間の取り組みを通して、顔の見える関係づくりの重要性を改めて感じました。
今後も様々な機関と連携し、さらに安心して住み続けられる街づくりを目指し、民医連の事業所だけでなく更にその範囲を広げ、今後も取り組んでいかなければならないと思います。

健康手帳
40年は経つのだろう。教諭から折り紙で模った口ひげを渡される人の中（鼻の下）に貼り、独特なリズムが流れる園庭でダンスを踊った。隣の家に住んでいたM君とは、毎日同じバスで幼稚園に通った仲。放課後、2人で庭にあったバケツに少々の水を汲み、一緒に振り回したことも幼い頃の思い出のひとつ。当時、友達との話題は「8時だよ全員集合」だった。最近、旅番組にも出演しているのを見かけたが、現地の人に低姿勢に敬語で声をかける姿が印象に残っていた。
▼3月末、急逝したとニュースが流れると、ネットニュースには多くのコメントが書かれた。どの記事にも見た事になく、いかにコメントが多い。「親子2代で楽しませてもらった」「会った事もないのにとても身近に感じる存在でした」「芸能人の追悼でこれほど反響があったのは初めてではないだろうか。▼発表される感染者数が日に日に多くなっていくコロナウィルス。学校の休校、不要不急の外出を控える、「3つの密」を避けること、国や県の提唱に伴い駅や街中にいる人が少なくなっている。一方感染者の入院病床が足りない地域では医療崩壊の警鐘が鳴らされた。1日も早く収束し安心して暮らしたい。

人権や生活を守るための視点

無差別平等の社会を目指して

坂総合病院 社会福祉士 吉田 真理



吉田真理さん

医療相談室では、運動方針(案)に各自目を通し、職場内で討議を行ないました。その討議内容が総会発言に反映されています。

東日本大震災から9年となる今、地域では孤立や貧困が問題となっています。大切な人を亡くした喪失感や自分だけが助かった罪悪感を抱えながら生活している方。新たな住まいを設けたものの、慣れ親しんだ地域から離れ、生活環境の変化

や人間関係に馴染むのに苦労をしている方。震災が原因で無職になったり、津波で自宅や店舗を流され生活再建のために新たな借金を抱えたりする方、また災害復興住宅の家賃値上げにより経済的困窮に直面し、夜でも電気を付けずに生活したり、通院や介護サービス利用を控える方もいます。

坂総合病院では、被災者の医療費一部負担免除が終了になった2016年以降、対象となっていた後期高齢者や非課税世帯の患者に対し、外来の無料低額診療を実施し、被災者の受療権を保障してきました。また、面談

や訪問で見えてきた実態を国や自治体へ発信してきました。被災住民が抱える問題は多岐に渡っており、包括的な支援の継続が必要だと思います。福島原発や25年が経過した阪神淡路大震災、そして熊本、北海道など各地で起きている地震の被災地、台風や水害などの被害が起きている地域でも同じようなことが課題となっているのではないのでしょうか。

また、平和や人権、安心して望む生活を営むことが脅かされ続けています。地域住民の受療権を守ることや生活保護、経済格差、貧困、外国人の

問題は民医連の事業所に限った問題ではなく、すべての国民に関わる問題です。これらに対し、地域住民が置かれている現状と課題を把握するためのアウトリーチを行い、事例を積み重ねて職種や法人・機関という垣根を超え、地域を巻き込んだ具体的な連携や実践が必要とされていると思います。さらには、これまでの取り組みが生活改善にどう結びついているか振り返り、次につながる方策の再検討も必要ではないかと思っています。

現場では患者・利用者の視点と経営的な視点の間でジレンマを抱えている状況もあります。患者や利用者により良い医療、介護を提供するために事業所が安定し、存続することが大前提です。経営的側面ではやりたいことをやってい

るだけでは安定は図れません。地域から何を求められているのかを常に考え役割を担っていくこと、そして診療報酬上での取り組みなければならぬことも出てくると思います。それらを実践していく際には職員の人材確保と働く環境の安定が必要で、民医連に求められていることを深く理解し、患者や利用者へ寄り添える職員を失わず、増やしていけるような取り組みが必要でないかと思っています。

患者・利用者、地域住民の苦勞や思いに共感し、問題点に対して行動を共にできる職員の存在や事業所の存続が、運動の発展とその先にある人権尊重・生活の安定・無差別平等の社会には重要だと考えます。

連載108

私の好きな憲法は何条?

坂総合病院 診療サービス課 石川 信子

憲法について頭を巡らせたときに、真っ先に浮かぶことは、「基本的人権」です。というのも、以前参加した倫理の勉強会で、歴史上どれだけ多くの非倫理的な研究が行われてきたのかを知り、当たり前のように思っていた「基本的人権」が当たり前でないことを痛感したからです。特に、社会的弱者を対象とした研究が多くあり、感染性肝炎の感染力を研究するために知的障害児施設の入

所者を人為的に肝炎に罹患させた例や、ユダヤ人慢性疾患病院の慢性疾患患者(ほとんどが認知症)に対してがんに対する免疫システムの研究のために生きたがん細胞を22名の被験者に注射された例など、耳を疑うような出来事が起こっています。

憲法第11条では、「国民は、すべての基本的人権の享有を妨げられない。この憲法が国民に保障する基本的人権は、侵すことのできない永久の権利として、現在及び将来の国民に与へられる」とされ、基本的人権は、

人種・性別・身分等の区別に関係なく、人間であれば当然に享有できる権利であることをあらわしています。しかし日本を含め世界の歴史をみるとそれは決して当たり前のことではないことが良くわかります。

一方、第97条では、「この憲法が日本国民に保障する基本的人権は、人類の多年にわたる自由獲得の努力の成果であって、これらの権利は、過去幾多の試練に堪へ、現在及び将来の国民に対し、侵すことのできない永久の権利として信託されたものである」とあり

ます。この条文を読むと、「基本的人権」は、長い年月をかけて努力をして勝ち取ってきた成果であることを深く感じます。当たり前だと思っていることは必ずしも当たり前ではないことを再認識し、当たり前であってほしいことが当たり前になる世の中になるように、自分にできることは何か、考えながら生活することが大事だと改めて感じました。

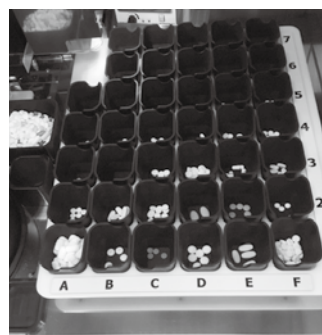
事業協で錠剤仕分け機を導入

廃棄薬品を減らして 経営改善につなげよう

宮城民医連事業協同組合理事長 金田 早苗

国民医療費が増え続け、その要因の一つとして薬剤費の高騰が指摘されています。宮城民医連の各事業所でも、薬品購入量は全体では高額になりましたが、使用されないで廃棄される薬剤が少なくないことを感じています。病院や保険薬局では、

錠剤をヒートからむいてバラにして一包化する業務を行っています。この一包調剤は、処方変更や入力ミスなどで作り直すことが日常的にあり、使われなかったバラ錠は回収して再利用すると良いのですが、1錠でも違う薬が混入した場合重大なミスにつながる可能性があります。再利用のためには、錠剤の仕分けと、再利用時の間違いが起らないようにダブルチェックでの確認など、その作業は大変な労力が必要となります。そのため、大部分の錠剤は廃棄されていました。特に、坂総合病院では、処方変更が多く、大量の錠剤を廃棄していました。



錠剤を薬品ごとに仕分けします

大変高額な機械ですが、自動でバラ錠を仕分けします。仕分けするときに撮る写真で最終確認をするというシステムで、正確に、そして大幅に省力化できます。

この機械を一つの事業所で利用するだけでは、事業協で導入することし

ました。坂総合病院だけではなく、厚生協会各病院とつばき薬局の各店舗で利用することにより、

県連全体で廃棄薬品を減らすこと、また、再利用に関わる手間、人件費を減らすことができます。この仕分け機は開発して日が浅いため、宮城県では事業協が初めての導入ということです。

2月下旬に機械が搬入されました。薬品マスタの整備などのまだ十分稼働していない状況ではありますが、3月1ヶ月で約30万円の薬品を再利用することができました。錠剤仕分け機を活用し、少しでも経営改善につなげていければと考えています。



仕分けた錠剤の表裏を写真で確認します



7つのマチガイ [問題]上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります!どこでしょう? (作・野上和彦)



クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。声の欄に掲載させていただきます。応募資格: 臨時・パート含む県連職員、締切5月14日当日消印有効。発表6月1日号。3月1日号まで「オンダンカ 温暖化」応募総数10件。当選者: 郷古洋子/坂総合クリニック、土村まどか/坂総合病院、鈴木久美子/長町病院、千石雅子/つばき薬局多賀城店。渡辺由美子/田子のまち。(敬称省略)